

本庄市緑の基本計画策定業務

中間報告書 市民アンケート調査 (単純集計)

令和2年3月

本 庄 市
株式会社 千代田コンサルタント

目 次

1) 市民意識把握（市民アンケート調査）	2
① 市民アンケート調査の目的	2
② 市民アンケートの方法と回収率	2
③ 市民アンケート調査の結果	3
a. 将来残しておきたい緑	3
b. 本市公園全般の評価	3
c. 身近な公園の評価	4
d. 大きな公園（本庄総合公園や若泉運動公園など）の評価	5
e. 公園の利用頻度、よく利用する公園	6
f. 公園に求める機能や役割	7
g. 緑のまちづくり活動への参加実績と今後参加したい活動	8
h. 公園イベント等の参加実績	8
i. 緑のまちづくり活動等の評価	8
j. 今後、公園・都市緑化行政における優先すべき施策	9
④ アンケート結果から導かれる課題	10
a. 残したい緑	10
b. 身近な公園の評価	10
c. 大きな公園の評価	10
d. 公園の利用度、よく利用する公園	10
e. 公園の役割	10
f. 優先すべき施策・事業	11

1) 市民意識把握（市民アンケート調査）

① 市民アンケート調査の目的

本アンケート調査は、住環境における緑の満足度、緑行政に対する評価・期待などを把握するとともに、緑のまちづくりに関わるボランティア活動における自己活動評価、及び公園づくりや維持管理における行政との協働の仕組みに対する市民の評価を把握することを目的に実施しました。

② 市民アンケートの方法と回収率

● アンケート対象

地域人口を勘案し無作為抽出された 18 歳以上の一般市民 3,000 人

● 配布・回収

- ・ 配布：依頼状、アンケート用紙、返信用封筒を郵送（令和 2 年 2 月 3 日）
- ・ 回収：返信用封筒により回収（投函期日：令和 2 年 2 月 17 日）
- ・ 発送：千代田コンサルタント、回収：本庄市

● 設問内容

アンケートは、以下の設問構成で実施しました。

	設 問	分析上の特記
属性	(1) 性別	クロス分析における性別の傾向の把握
	(2) 年代	クロス分析における年代別の傾向の把握
	(3) 家族構成	クロス分析における家族構成別の傾向の把握
	(4) 居住地区（小学校単位）	クロス分析における地区別傾向の把握
	(5) 居住歴	クロス分析における居住年数による傾向把握
市の緑の 魅力と 課題	(6) 残したい緑	景観資源等の抽出
	(7) 具体的な残したい緑	景観資源等の抽出
	(8) 緑に関わるまちづくり事業の主観評価・ 市内公園の主観評価	都市緑化及び公園緑地行政に対する市民評価・市内公園 の満足度
公園の 利用や課題	(9) 公園の利用頻度	「緑の基本計画」目標指標（案）として把握
	(10) よく利用する公園	利用状況の把握
	(11) 公園を利用する理由	公園利用の動機把握
	(12) 近くの小規模公園（住区基幹公園）の主 観評価	対象公園記述、施設充実度等の主観評価、公園施設整備 及び管理水準の市民評価把握
	(13) 都市基幹公園の主観評価	対象公園記述、施設充実度等の主観評価、公園施設整備 及び管理水準の市民評価把握
	(14) 公園に求める機能や役割	公園整備におけるニーズの把握
緑豊かな まちづくり への参加	(15) まちづくり活動の参加実績、希望	緑のまちづくり活動の実態把握
	(16) 公園イベントへの参加実績	「緑の基本計画」目標指標（案）として把握
	(17) 参加したメリット	(15)(16)において（ある）と回答した方への設問
その他	(18) 公園・都市緑化行政における優先すべき 施策	今後の施策の優先度
	(19) 自由意見	自由回答による課題や提案の把握

● 回収結果

本アンケート調査は、3,000 の配布数に対して、1,175 の回答がありました。回答率は、約 39.2%です。

③ 市民アンケート調査の結果

a. 将来残しておきたい緑

○「将来残しておきたい緑」の問い（複数回答）では、「本庄総合公園や若泉運動公園などの大規模公園の緑」（60.9%）が最も多く、次いで「大久保山や雉丘城跡などの市街地や周辺に残る緑」（43.6%）、「利根川・小山川・間瀬湖などの水辺の緑」（38.6%）の順となりました。

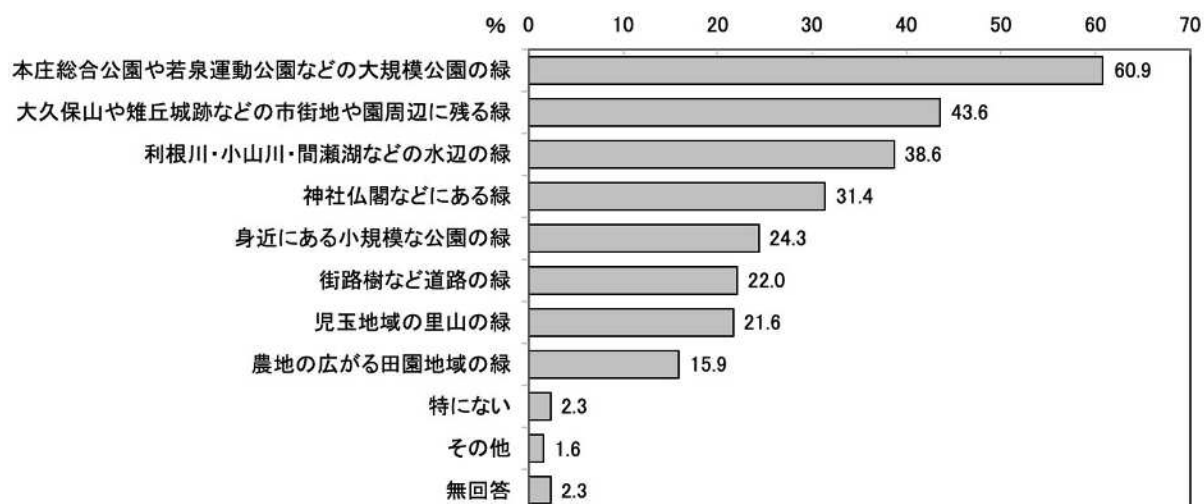


図 1 問 6「将来に残しておきたい緑」

○ 居住歴別にみると、30 年以上居住歴の方は、大久保山・雉ヶ丘城跡、社寺などふるさとの歴史文化を継承する緑を比較的多く選択し、居住歴が短い方は、総合公園や身近な小規模公園を多く選択する傾向にありました。長く居住している方はふるさとの景観を大事に思い、若い世代は住環境における機能性を重視されているものと推察されます。

b. 本市公園全般の評価

○「本庄市の公園に満足している」かについて、「そう思う（5）」から「そう思わない（1）」までの 5 階級で回答いただいた結果、「どちらでもない」が 34.4%で最も多く、次いで「ややそう思う」（22.7%）、「あまりそう思わない」（15.3%）の順でした。無回答を除く階級値の平均は、3.01 となりました。

年代別に見ると、子育て世代である「20 歳代」、「30 歳代」では、階級値がそれぞれ 2.90、2.71 と満足度が低い傾向となりました。

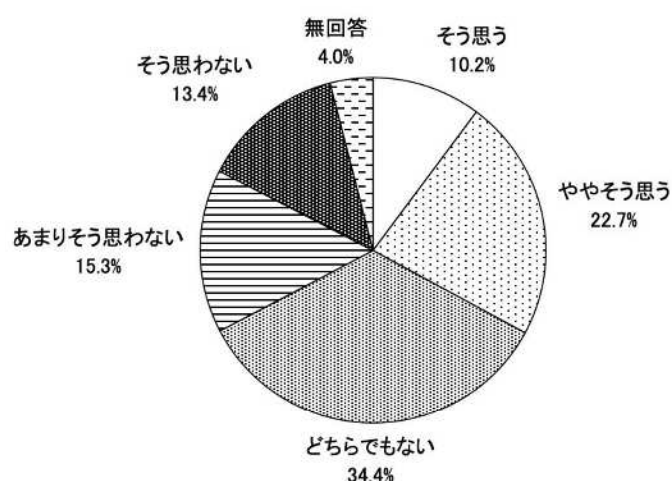


図 2 問 8-3「本庄市の緑に満足している」

○また、「緑や公園がまちに良い景観を作っている」かの問いでは、「どちらでもない」が28.6%で最も多く、次いで「ややそう思う」が27.5%、「そう思う」が24.9%の順となりました。無回答を除く階級値の平均は、3.56 となり、3 の「どちらでもない」を上回っています。地区別の階級値平均では、「北泉小学校区」が3.94と最も高く、次いで「仁手小学校区」の3.76 となりました。

c. 身近な公園の評価

○「住まいの近くの公園に満足している」かの問いでは、無回答を除く階級値の平均が、2.72 となり、評価がやや低い結果となりました。特に、子育て世代である「20 歳代」、「30 歳代」の評価が低い結果となりました。

地区別の階級平均値は、「北泉小学校区」が 3.46 と最も高く、続いて「本庄西小学校区」が 3.18 となりました。一方、「金屋小学校」は 2.30 で最も低く、「本庄南小学校区」は2.34、「藤田小学校区」は2.40、「児玉小学校区」は 2.44 と、評価が低くなりました。

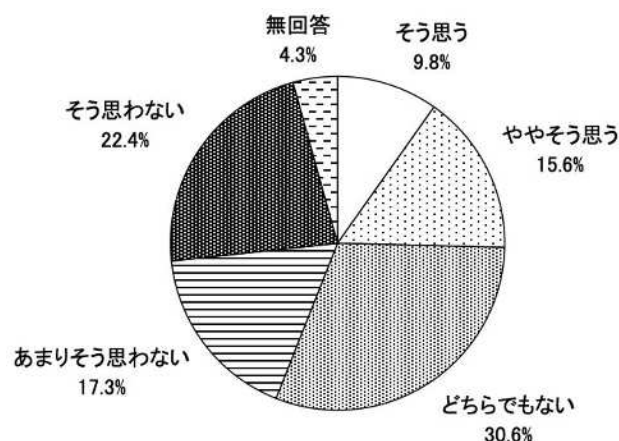


図 3 問 8-4 「住まいの近くの公園に満足している」

○身近な小規模公園を対象とした「安全に遊べる遊具が充実している」かの問いでは、「無回答」が35.8%で最も多く、次いで「どちらでもない」と「そう思わない」が20.4%となりました。無回答を除く階級値の平均は、2.39 で、階級値 3 の「どちらでもない」を大きく下回る結果となりました。

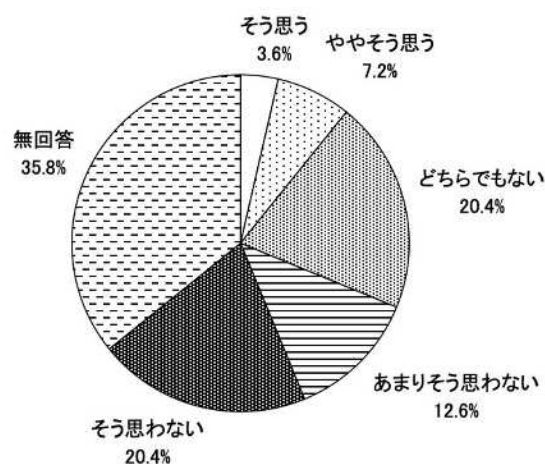


図 4 問 12-2 「安全に遊べる遊具が充実している」

○「近くの住民によく利用されている」かの問いでは、無回答を除く階級値の平均は、2.97 で、階級値 3 に近い値となりました。属性で階級値平均に大きな乖離があるのが「居住地区」で、「本庄東小学校区」が3.46、「児玉小学校区」が3.27、「本庄西小学校区」が3.25 と比較的高い評価となりました。一方「秋平小学校区」は 2.42、「共和小学校区」と「仁手小学校区」が2.55 となり比較的低い評価となりました。

○「身近な環境に公園がある」かの問いでは、居住地区によって評価に差が見られます。「北泉小学校区」が 4.16、「本庄西小学校区」が3.79、「本庄東小学校区」が3.65と比較的高い評価となりました。一方「金屋小学校区」は 2.44、「藤田小学校区」が 2.56、「仁手小学校区」が 2.66 となり比較的低い評価となりました。

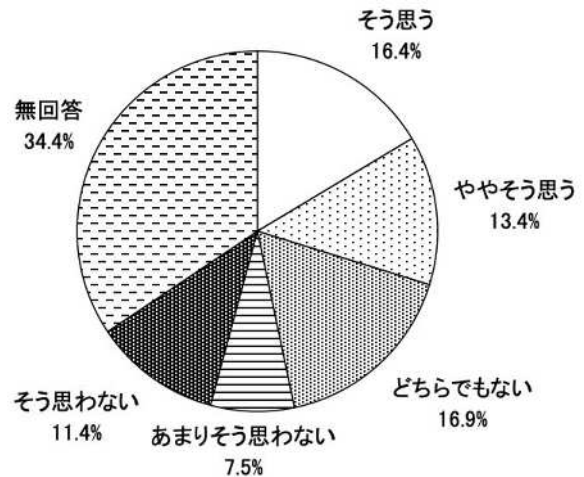


図 5 問 12-10「身近な環境に公園がある」

d. 大きな公園（本庄総合公園や若泉運動公園など）の評価

○大きな公園における「ベンチやあずまやなどの休憩施設が充実している」かについて、「そう思う（5）」から「そう思わない（1）」までの5階級で回答いただいた結果、無回答を除く階級値平均は 3.47 で、階級値 3 を上回る結果となりました。

○また、「売店やカフェがあったほうが良い」かの問いでは、「無回答」が 32.8%で最も多く、次いで「そう思う」が 24.3%、「どちらでもない」が 15.4%となりました。無回答を除く階級値の平均は 3.54 で、階級値 3 を上回る結果となりました。

年代別では、若い世代ほど階級平均値が高く、売店やカフェの必要性を感じているようです。また、家族構成別では、「親と子（2 世代）」「祖父母と親子（3 世代）」において階級平均値が高くなっています。このことから子育て世代において、売店やカフェの必要性を感じている方が多いことが推察されます。

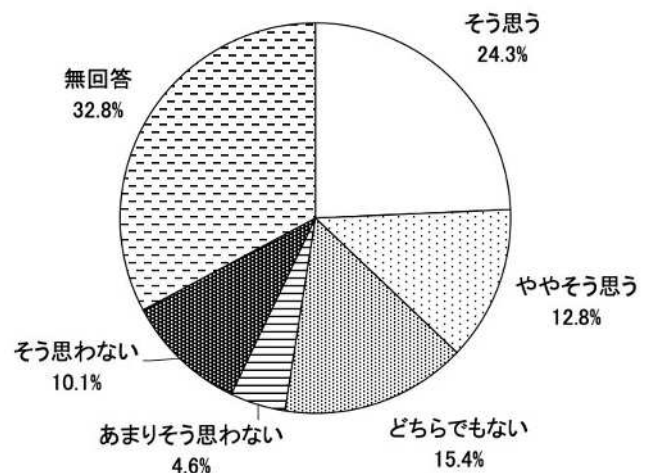


図 6 問 13-2「売店やカフェがあった方がよい」

○「公園の植物がよい景観をつくっている」かの問いでは、無回答を除く階級値の平均は 3.89 で、階級値 3 を大きく上回る結果となりました。

○「多くの人によく利用されている」かの問いでは、無回答を除く階級値の平均は 3.96 で、階級値 4「ややそう思う」に近い結果となりました。よく利用されていると感じる市民が多い結果となりました。

○「球技場やグラウンドなどの体育施設が充実している」かの問いでは、無回答を除く階級値の平均は 3.75 で、階級値 4「ややそう思う」に近い結果となりました。体育施設が充実していると感じる市民が多い結果となりました。

e. 公園の利用頻度、よく利用する公園

○ 公園の利用頻度に関する問いでは、最も多い回答が「年に1回未満」(31.9%)で、次いで「月に1回未満～年に1回以上」(30.4%)、「週に1回未満～月に1回以上」(21.4%)でした。

全ての利用頻度の回答を年利用回数に換算した利用回数の平均は、24.54 回/年でした。また中央値は、4 回/年でした。

月に1回未満の方が全体の6割強いますが、週に3回以上利用する方も5%強おり、利用頻度の高い方が平均利用回数を押し上げていると思われます。

○ 「よく利用する公園」に関する問いでは、「本庄総合公園」が 261 回答、「若泉公園※」が 154 回答となり、他の公園を大きく引き離し回答数が多い結果となりました。

表 1 「よく利用する公園」の回答における公園名の出現回数（上位）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
本庄総合公園	261	ふるさとの森公園	6
若泉公園※	154	下野堂公園	6
マリーゴールドの丘	20	どんぐり公園	5
城下公園	17	伊勢崎市民	5
フラワーパーク	13	さくら公園	5
四季の里	11	児玉総合運動公園	5
雉岡城跡	10	見福公園	4
児玉児童公園	8	柏公園	4
シルクドーム	7	蛭川農村公園	4
小島西公園	7		

※「若泉公園」の回答については、若泉第一公園、若泉第二公園、若泉運動公園のどれを指すか確認できないことから、これらの3公園を合わせて「若泉公園」として集計しています。

○ 利用する理由としては、「散歩・ウォーキング」を目的として利用している方が多い傾向にあり、「近い」「子供の遊びの付き添い」「遊具が充実」も出現回数の多い結果となりました。

表 2 公園を利用する理由（上位）

公園名	利用する理由（数字は抽出件数）
本庄総合公園	散歩・ウォーキング（95）、遊具が充実（60）、近い（43）、子供の遊びの付き添い（35）、広い（31）、季節の花の鑑賞（22）、イベント（13）、犬の散歩（13）、ジョギング（11）、駐車場が充実（10）、豊かな緑（10）等
若泉運動公園	散歩・ウォーキング（50）、近い（30）、花見（24）、子供の遊びの付き添い（12）、遊具が充実（9）、犬の散歩（7）、テニス（6）、水辺がある（5）、イベント（4）、ジョギング（4）、良好な景観（4）、広い（4）等
マリーゴールドの丘	散歩・ウォーキング（9）、季節の花や景色（3）、近い（3）、イルミネーション（2）、ジョギング（2）、駐車場が充実（2）、眺望が良い（2）等
城下公園	近い（6）、散歩（4）、子供の遊びの付き添い（4）、遊具が充実（3）、ラジオ体操（2）、広い（2）
フラワーパーク	散歩・ウォーキング（8）、ジョギング（1）、ポケモン（1）、花見（1）、近い（1）、仕事関係（1）
四季の里地区の公園	散歩・ウォーキング（5）、子供の遊びの付き添い（4）、近い（3）、犬の散歩（2）、遊具が充実（2）、運動（1）、広い（1）、混んでいない（1）
雉岡城跡	散歩・ウォーキング（5）、近い（3）、花見（2）、トイレ（1）、開放感・気分転換（2）、良好な景観（1）、犬の散歩（1）

f. 公園に求める機能や役割

- 「今後どのような公園ができると良いと思うか（複数回答）」の問いでは、「散歩やジョギングを楽しめる公園」が 52.0%で最も多く、次いで「防災機能を備えた公園」が 43.6%、「景観が良く、のんびりすごせる公園」が 41.6%、「カフェや売店のある公園」が 29.0%、「遊具が充実している公園」が 19.3%となりました。
- 年代別では、40 歳代以下では、「カフェや売店のある公園」「遊具が充実している公園」の回答が多い傾向にあります。一方 40 歳代以上では、「散歩やジョギングを楽しめる公園」の回答が多い傾向にあります。
- 家族構成別では、「親と子（2 世代）」において「遊具が充実している公園」の回答が比較的多く、子育て世代のニーズを反映したものと推察されます。
- 居住地区別で見てみると、「本庄西小学校区」と「共和小学校区」では「防災機能を備えた公園」が最も多い回答となりました。また、「仁手小学校区」では「景観が良く、のんびりすごせる公園」が最も多い回答となりました。

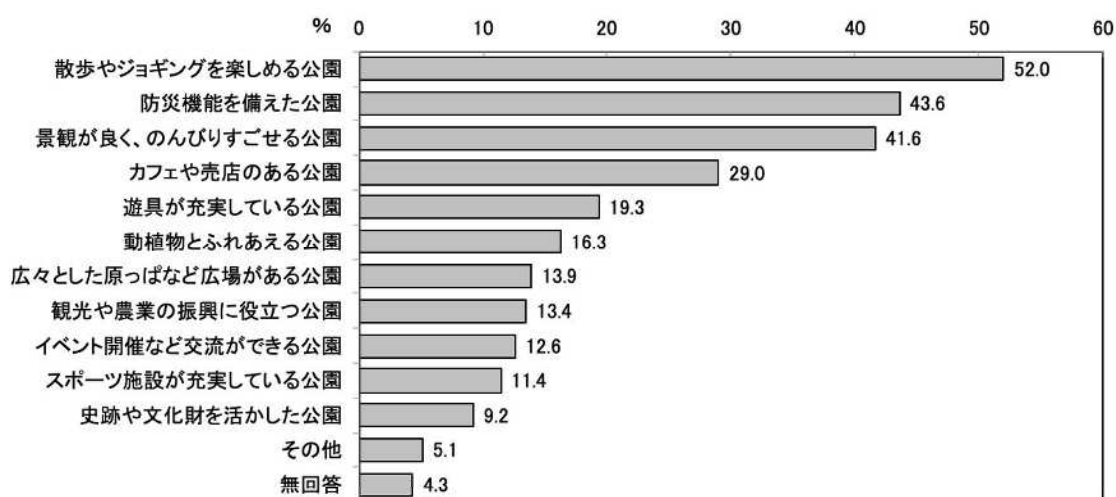


図 7 問 14「できると良いと思う公園」

g. 緑のまちづくり活動への参加実績と今後参加したい活動

○「参加経験がある緑のまちづくり活動」に関する問いでは、「道路などの清掃活動」が 30.0%で最も多く、次いで「公園のゴミ拾いや花植え」が 13.3%、「河川の清掃や草刈り」が 13.0%となりました。

年代別で見ると、「40 歳代」「50 歳代」「60 歳代」「70 歳代」の「無回答」は、60%以下となり、他の世代よりもまちづくり活動への参加実績が多いことが伺えます。一方で、「20 歳代」の無回答は 84.3%、「18 歳・19 歳」の無回答は 78.9%、「30 歳代」の無回答は 78.2%となり、他世代よりも参加実績が少ない傾向が読み取れます。

○「今後参加したい緑のまちづくり活動」に関する問いでは、「花いっぱい運動などのまちの緑化」が 17.5%で最も多く、次いで「公園のゴミ拾いや花植え」が 14.1%、「子どもに自然の中で遊び方を教える」が 13.8%、「緑に関するイベントへの参加」が 12.5%、「里山の保全活動」が 12.1%となりました。

性別では、「花いっぱい運動などのまちの緑化」、「公園のゴミ拾いや花植え」、「子どもに自然の中で遊び方を教える」について、女性の参加意欲が高い結果となりました。

年代別では、子育て世代である 20 歳代から 40 歳代において、「子どもに自然の中で遊び方を教える」が他の世代よりも多い結果となりました。また、「20 歳代」では「里山の保全活動」「公園計画づくりへのワークショップへの参加」「身近な生き物観察や緑の調査」「緑化のための募金活動」についても他の世代に比べ高い結果となりました。

h. 公園イベント等の参加実績

○「公園イベントの参加実績」に関わる問いでは、「こだま千本桜の桜まつり」が 42.9%で最も高く、次いで「若泉公園の桜まつり」が 39.0%、「本庄総合公園春まつり」が 35.7%、「マリーゴールドの丘のイルミネーション」が 27.1%、「身近な公園で開催される納涼祭やイベント」が 25.0%となり、多くの市民が公園イベントに足を運んでいることがわかりました。

性別では、全てのイベントにおいて、男性よりも女性の方が多く参加している結果となりました。

i. 緑のまちづくり活動等の評価

○緑化活動や公園イベント等に参加したことで「活動の成果を感じられた」かについて、「そう思う（5）」から「そう思わない（1）」までの 5 階級で回答いただいた結果、無回答を除く階級値の平均は、3.65 となり、階級値 3 の「どちらでもない」を大きく上回っています。

○「自分の技術や知識を向上することができた」かの問いでは、無回答を除く階級値の平均は、2.76 となり、階級値 3 の「どちらでもない」を下回っています。

○緑化活動や公園イベント等に参加したことで「楽しかった」かの問いでは、「ややそう思う」が 35.5%で最も多く、次いで「どちらでもない」が 24.9%、「そう思う」が 24.1%となりました。無回答を除く階級値の平均は、3.89 となり、階級値 3 の「どちらでもない」を大きく上回っています。

j. 今後、公園・都市緑化行政における優先すべき施策

- 公園・都市緑化行政における優先すべき施策についての問いでは、「街路や川沿いを緑化する」が 32.9%で最も多く、次いで「「本庄総合公園」「若泉運動公園」などの大きなレクリエーション空間を充実させる」が 32.2%、「身近な公園をリニューアルする」が 29.2%、「貴重な動植物が生息する自然環境を保全する」が 26.0%、「山林を適切に保全・再生する」が 22.6%となりました。
- 年代では、若い世代ほど「身近な公園をリニューアルする」や「大きなレクリエーション空間を充実させる」を優先すべきとする回答が多い一方で、50 歳代より上の世代では「街路や川沿いを緑化する」を優先すべきとする回答が多い結果となりました。
- 居住地区別では、それぞれ異なる地域特性を反映した結果となり、中央小・児玉小・金屋小の学区では、「身近な公園をリニューアルする」が、本庄東小・本庄西小・旭小・北泉小・本庄南小の学区では「大きなレクリエーション空間を充実させる」が、藤田小学校区では「街路や川沿いを緑化する」が、仁手小学校区では「貴重な動植物が生息する自然環境を保全する」が、秋平小・共和小の学区では「山林を適切に保全・再生する」が最も多い回答となりました。

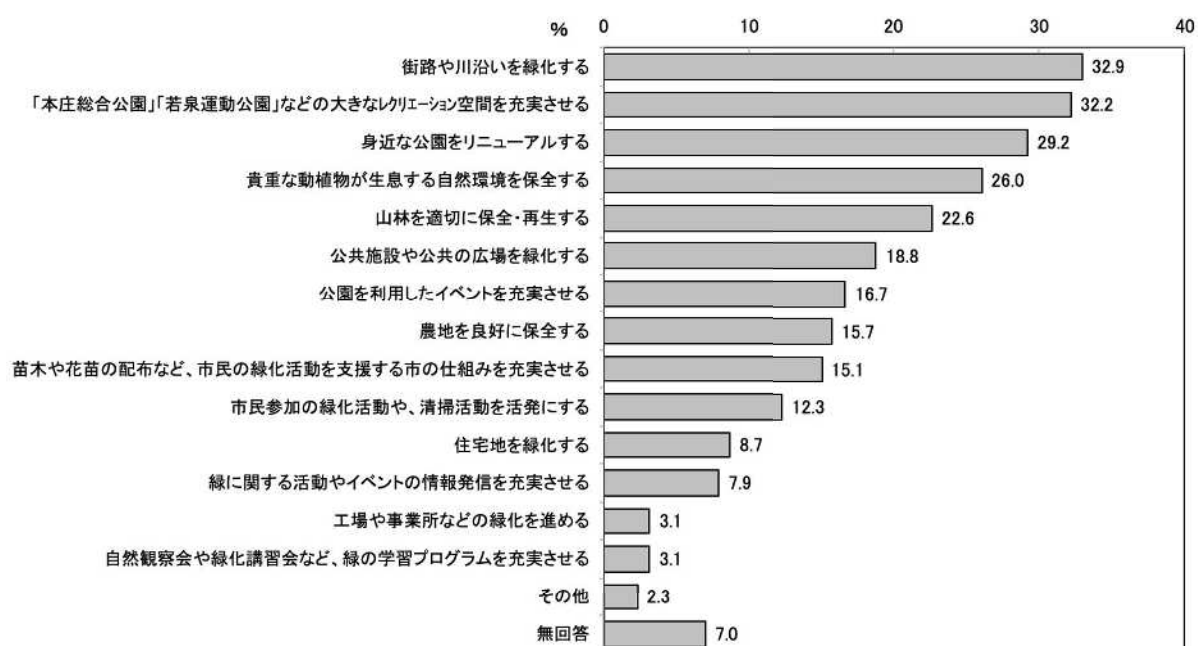


図 8 問 18 「今後、公園・都市緑化行政における優先すべき施策」

④ アンケート結果から導かれる課題

本計画の策定に向けて実施した市民アンケート調査では、以下のような結果が導き出されました。

a. 残したい緑

市民が考える「将来残しておきたい緑」は、「本庄総合公園や若泉運動公園などの大規模公園の緑」や「大久保山や雉丘城跡などの市街地や周辺に残る緑」、「利根川・小山川・間瀬湖などの水辺の緑」が上位となりました。また、長く居住している方はふるさとの景観を大事に思い、若い世代は住環境における機能性を重視する傾向がありました。

魅力ある本市の景観資源の保全や充実に向けて、現行施策の検証が必要です。

b. 身近な公園の評価

身近な公園に対する満足度は、公園全般の評価と比較し低い結果となりました。

「身近な環境に公園がある」かの問いでは、居住地区によって評価に差が見られ、金屋小、藤田小、仁手小の学区において特に評価が低くなっています。

機能面では、遊具の充実度が低い評価となり、特に子育て世代の評価が低い結果となりました。特に、金谷小、本庄南小、藤田小、児玉小等の学区において、低い評価となりました。

市における公園面積が着実に増加してきている一方で、公園の偏在、公園施設の老朽化や利用ニーズとの乖離が、課題的な市民評価につながっているものと考えられます。

c. 大きな公園の評価

本庄総合公園や若泉運動公園などの大きな公園を対象とした評価では、「多くの人によく利用されているか」、「球技場やグラウンドなどの体育施設が充実しているか」、「ベンチやあずまやなどの休憩施設が充実しているか」、「公園の植物がよい景観をつくっている」等において肯定的な評価となりました。

一方で、「売店やカフェがあったほうが良いか」の問も必要性を感じる方が多い結果となりました。特に若い世代、子育て世代ほど、売店やカフェの必要性を感じているようです。

d. 公園の利用度、よく利用する公園

公園の利用頻度に関する問いでは、最も多い回答が「年に1回未満」(31.9%)で、次いで「月に1回未満～年に1回以上」(30.4%)、「週に1回未満～月に1回以上」(21.4%)でした。全ての利用頻度の回答を年利用回数に換算した利用回数の平均は、24.54 回/年でした。また中央値は、4 回/年でした。月に1回未満の方が全体の6割強いますが、週に3回以上利用する方も5%強おり、利用頻度の高い方が平均利用回数を押し上げていると思われます。

公園利用頻度は、都市公園の施設充実度やコミュニティの関わりを図るシンプルな指標です。計画策定における目標値の候補の一つとして議論が必要です。

e. 公園の役割

よく利用する公園における利用目的では、「散歩・ウォーキング」を目的として利用している方が多い傾向にあり、「近い」、「子供の遊びの付き添い」、「遊具が充実」も出現回数の

多い結果となりました。

「今後どのような公園ができると良いと思うか（複数回答）」の問いでは、「散歩やジョギングを楽しめる公園」が 52.0%で最も多く、次いで「防災機能を備えた公園」が 43.6%、「景観が良く、のんびりすごせる公園」が 41.6%、「カフェや売店のある公園」が 29.0%、「遊具が充実している公園」が 19.3%となりました。

年代別では、40 歳代以下では、「カフェや売店のある公園」「遊具が充実している公園」の回答が多い傾向にあります。一方 40 歳代以上では、「散歩やジョギングを楽しめる公園」の回答が多い傾向にあります。

今後の公園の役割は、「健康増進の場」や「子供の遊び場」、「災害時の拠点」、「休息の場」など様々な役割を果たすことが求められます。既存の公園や公園に類似する機能を持つオープンスペースの効果的な連携や役割分担など、限られた政策資源を効果的に投入することで、だれもが利用できる公園の充足を図る必要があります。

f. 優先すべき施策・事業

公園・都市緑化行政における優先すべき施策についての問いでは、「街路や川沿いを緑化する」が 32.9%で最も多く、次いで「「本庄総合公園」「若泉運動公園」などの大きなレクリエーション空間を充実させる」が 32.2%、「身近な公園をリニューアルする」が 29.2%、「貴重な動植物が生息する自然環境を保全する」が 26.0%、「山林を適切に保全・再生する」が 22.6%となりました。

年代では、若い世代ほど「身近な公園をリニューアルする」や「大きなレクリエーション空間を充実させる」を優先すべきとする回答が多い一方で、50 歳代より上の世代では「街路や川沿いを緑化する」を優先すべきとする回答が多い結果となりました。

居住地区別では、それぞれ異なる地域特性を反映した結果となり、中央小・児玉小・金屋小の学区では、「身近な公園をリニューアルする」が、本庄東小・本庄西小・旭小・北泉小・本庄南小の学区では「大きなレクリエーション空間を充実させる」が、藤田小学校区では「街路や川沿いを緑化する」が、仁手小学校区では「貴重な動植物が生息する自然環境を保全する」が、秋平小・共和小の学区では「山林を適切に保全・再生する」が最も多い回答となりました。

今後の公園整備や緑地保全、都市緑化では、地域特性を考慮し、地域に必要な施策・事業を展開することが求められます。また、NPO や市民、企業との協働体制を構築し、様々な役割を担う主体が参加しやすいまちづくりが求められます。